

# 上野国府のヒント

元総社町付近では、上野国府を考える上で重要なヒントが数多く発見されていますが、そうちのいくつかを紹介します。

その1

## 掘立柱建物跡



この掘立柱建物は、元総社公民館の建設に伴う発掘調査（蒼海遺跡群（9））で確認されたものです。東西10間・南北3間で、東西にとても長い建物です。

出土した遺物などから、上野国府が設置されるよりも少し前に建てられた建物と考えられますが、具体的に何に使われた建物であるかは、よく分かっていません。

国府はこうした大きな建物がたくさん建てられていたと考えられますが、ほとんど発見されていません。今後、このような大きな建物跡が発見されることが期待されます。

その2

## 古代の大溝跡



元総社町では、これまでの発掘調査で、写真のような大きな溝が見つかることがあります。

これらの溝は、5m程度の幅を持ち、深さは2m程度であったと考えられます。また、確認されている地点が連続していることから、比較的長い距離にわたって掘られている溝と推定され、出土品や溝に堆積していた火山灰から、古代に掘られたものと考えられます。

こうした溝は、その大きさや、水が流れていた痕跡がないことから、国府の範囲を区切るために掘られた溝ではないかと考えられています。

その3

## 人形（ひとがた）

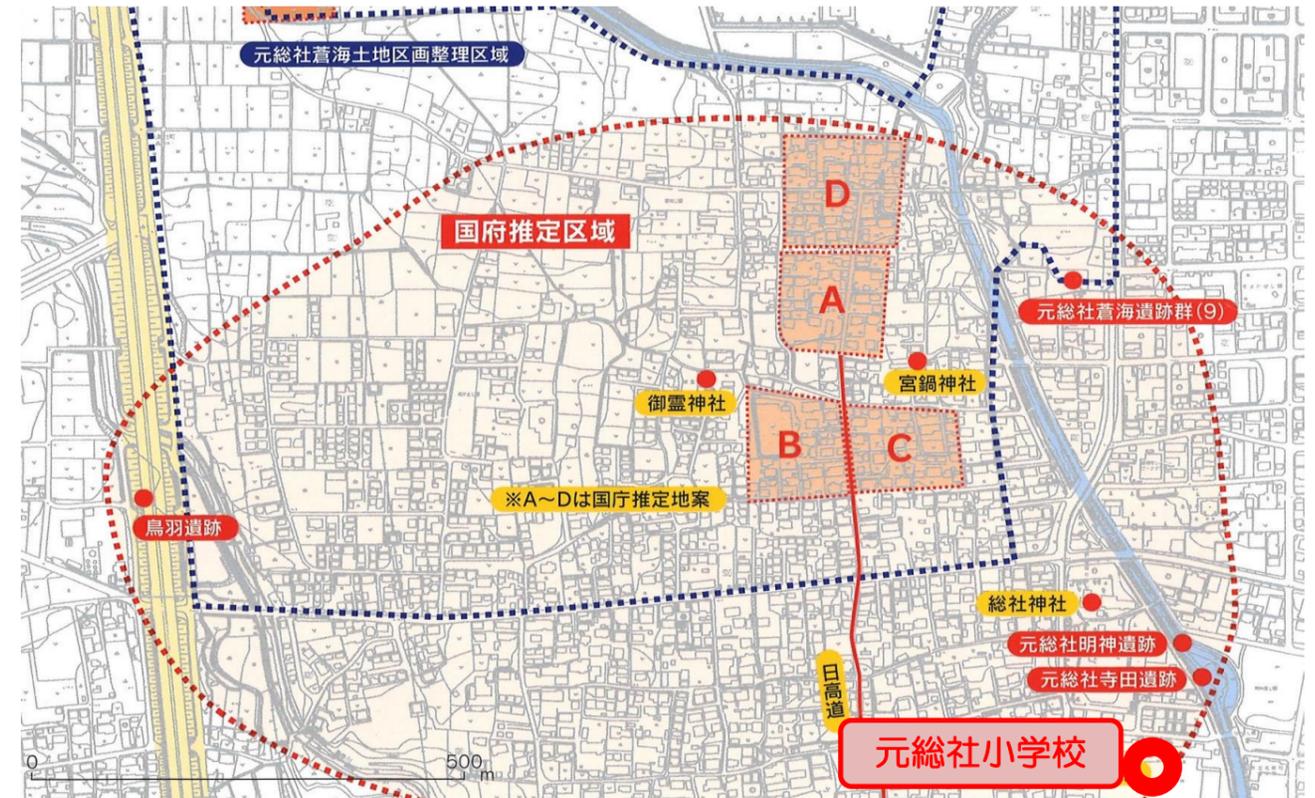


総社神社や元総社小学校付近の牛池川では、写真のような木の札のようなもの出土しています。破損している部分もあるため、分かりにくいところもあり、上部に楕円形の頭、その下に長い胴体、下部には二股に分かれた足の表現がなされています。

これは人形（ひとがた）といって、「はらえ」と呼ばれる身を清める儀式に使われた道具です。

この儀式は、奈良時代に都や地方の主要な役所で行われていたことから、牛池川から出土した人形は、上野国府で使用されたものである可能性が高いといえます。

# 元総社小学校の発掘調査



遺跡の位置

## ～はじめに～

「国府」とは、奈良・平安時代の律令制度下における地方政治・経済の中心施設で、全国に設置されました。当時、現在の群馬県は「上野国」と呼ばれていましたが、その中心となる「上野国府」については、詳しいことは分かっていません。ただし、これまでの研究や発掘調査で、現在の前橋市元総社町付近に設置されたと考えられています。

前橋市教育委員会では、平成23年度から、上野国府の内容を解明することを目的とした「上野国府等範囲内容確認調査」を、元総社町の蒼海地区を中心に実施しています。

今回、現地説明会を開催する元総社小学校の校庭においては、昭和37年に群馬大学による発掘調査で掘立柱建物跡が2棟確認されています。また、その東側を流れる牛池川沿いで実施された発掘調査（元総社明神遺跡・元総社寺田遺跡）で、国府に関連した施設名である「国厨（くにのくりや）」「曹司（そうし）」などと墨書された土器や、国府での儀式に使用されたと考えられる「人形（ひとがた）」が出土しています。このため、この付近にも国府に関連した施設が存在した可能性が考えられることから、平成25年度から発掘調査を継続しており、今年度で3年目となります。

今回の現地説明会では、群馬大学の調査で確認された掘立柱建物跡の再調査の状況をご覧いただくとともに、過去2年間の発掘調査による出土品等も展示して、これまでの上野国府等範囲内容確認調査の成果をご紹介します。

平成27年度上野国府等範囲内容確認調査

## 元総社小学校の発掘調査

平成27年8月22日発行

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課

〒371-0853

前橋市総社町三丁目11番地4

TEL：027-280-6511

## ～元総社小学校の発掘調査のあらまし～

元総社小学校の校庭の発掘調査は、昭和36～39年・41年にわたって「元総社小学校庭遺跡」として群馬大学によって調査が行われ、竪穴住居跡のほか掘立柱建物跡2棟が検出されました。

元総社小学校付近では、その後、牛池川の対岸の元総社明神遺跡の発掘調査で「人形（ひとがた）」が出土しました。人形は牛池川の河川改修に伴う発掘調査でも出土しており、一緒に「国厨」・「曹司」など国府に関連する施設名が墨書された土器も出土しています。

前橋市教育委員会では、上野国府等範囲内容確認調査の一環として、平成25年度から元総社小学校の校庭の発掘調査を実施しています。平成25年度は、幅2メートル程の浅い溝と、溝に捨てられた多くの土器が確認されました。平成26年度は、幅2m程のやや深い古代の溝と、規模は不明ながらも古代の建物跡1棟、竪穴住居跡5軒が確認されました。

平成27年度は、昨年度見つけた古代の溝跡の延長を確認するほか、群馬大学の調査で検出された1号掘立柱建物の正確な位置の確認を目的として発掘調査を実施しています。



## 建物跡の再確認 (H27調査)



元総社小学校校庭遺跡の想定地点を発掘したところ、想定どおりの場所で掘立柱建物跡が検出されました。昭和30年代の発掘調査終了時に、発掘した場所がよくわかるように大量の砂で埋めてあったため、確認しやすい状態となっていました。

## 高級食器と墨書土器 (H25調査)

平成25年度の調査では、多量の土器が捨てられていた幅2メートル程の溝を確認しました。これらの土器の中には、一般的な集落では用いられないような非常に丁寧に作られた土器が多く、また「奉(奉)」や「大家(おおやけ)」の文字が墨書された土器も出土しました。

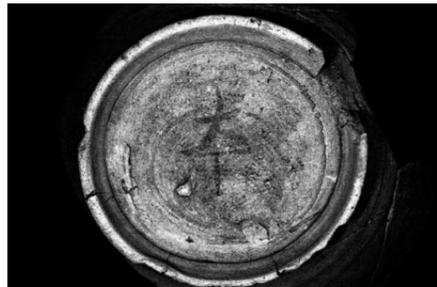
これらのことから、この溝に捨てられていた土器は、公的な施設で使用されていたものと考えられ、上野国府に関連する何らかの施設の存在が想定されます。



古代の溝と土器の出土状態



溝から出土した土器 (一部)



「奉(奉)」の墨書

## 住居の確認 (H27調査)



平成27年度前半の調査では、校庭南側を発掘しました。ここでは平安時代中頃の住居跡や、中世の井戸などが確認されました。

## 古代の溝と建物跡 (H26調査)



やや深い古代の溝



古代の建物跡



建物跡の柱穴の断面

平成26年度の調査では、古代の溝と建物跡が確認されました。古代の溝は幅約2m、深さ約1mで、南北方向に掘られています。建物跡は、攪乱や中世の堀の影響を受けていましたが、柱穴と考えられるものが3ヶ所確認されました。柱の穴の上に平安時代中頃の住居が作られており、その頃には建物は無かったと考えられます。また、柱穴を埋める土は縞状で非常に固く締まっていました。